4-7 関東甲信地方の地殻変動 Crustal Movements in the Kanto District

国土地理院 Geographical Survey Institute

[験潮 房総·三浦半島]

第1図は布良(めら)・勝浦・油壺各験潮場間の月平均潮位差である.2004年の夏に勝 浦が大きく変化しているのは,黒潮の蛇行に伴うものと考えられるが,最近は平常な状態 に戻っている.最近は,目立った変化は見られない.

[歪み・傾斜 館山]

第2図は館山地殻活動観測場の伸縮計,傾斜計の連続観測データ(日平均値)である. 2005年7月23日の千葉県北西部の地震(M6.0)に伴う歪計(北東-南西成分),傾斜計(北 東-南西成分)のジャンプがあるが,その他に特別な変化は確認できない.2008年6月18 ~19日の期間は,水管傾斜計の機器更新・調整作業のためにデータに飛びが生じている. また,北東-南西成分の水管傾斜計は2008年8月にセンサーの調整のためデータに欠測が ある.最近は特に目立った傾向の変化は見られない.

[EDM 辺長 鹿野山]

第3図は鹿野山で行っている辺長観測の結果である.上段の鹿野山-小糸基線,中段の 鹿野山-人見基線については,わずかな短縮の傾向に顕著な変化は見えない.下段の鹿野 山-大坪山基線は,2006年11月以降欠測になっていたが,大坪山観測点については,2007 年10月から反射鏡の位置を変更して観測を再開した.残念ながら位置変更前後のデータの 連続性はない.他の基線についても特段の変化はない.

参考文献

1)	国土地理院,	2004,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	71,	379-393.
2)	国土地理院,	2004,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	72,	197-213.
3)	国土地理院,	2005,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	73,	105-110.
4)	国土地理院,	2005,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	74,	127-147.
5)	国土地理院,	2006,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	75,	190-198.
6)	国土地理院,	2006,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	76,	165-174.
7)	国土地理院,	2007,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	77,	132-141.
8)	国土地理院,	2007,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	78,	167-183.
9)	国土地理院,	2008,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	79,	140-154.
10)	国土地理院,	2008,	関東甲信地方の地殻変動,	地震予知連絡会会報,	80,	157-171.

布良・勝浦・油壷各験潮場間の月平均潮位差

特段の変化は見られない.

海岸昇降検知センター「潮位年報」による 2008年10月の潮位データは暫定値による





第1図 布良・勝浦・油壺各験潮場間の月平均潮位差

Fig. 1 Comparisons of monthly mean values of sea level measured at 3 tide gauge stations in Kanto area.

国土地理院館山地殻活動観測場の2006年3月~2009年の観測データに極性の誤りがありました.本頁の図は用いず,修正版をご参照ください.

館山地殻活動観測場(日平均値) 2005年10月1日~2008年11月11日



最新観測データ:2008年10月



第3図 鹿野山精密辺長測量結果

Fig. 3 Results of precise distance measurements at Kanozan.